

会 議 録

1 会議名

令和6年度第5回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・くわどり湯ったり村の運営状況について（公開）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和6年10月29日（火）午後6時30分から午後8時00分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員： 坪田 剛（会長）、横田正美（副会長）、安達麻美、安達光宏、
笠原裕幸、佐藤和幸、佐藤幸太郎、白滝 了、田村 隆、中原桂一、
番場 淳子（欠席者1名）
- ・観光振興課： 小関係長、水島主事
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：佐藤幸太郎委員に依頼

議題【報告事項】くわどり湯ったり村の運営状況について、観光振興課が来ておられるので、概要の説明をお願いします。

【観光振興課：小関係長】

本日は、「令和5年度のくわどり湯ったり村及びゆったりの家における、市及び指定管理者の収支状況等について」を報告する。9月議会に令和5年度の決算を報告したので、地域の皆様にも実情を知っていただくため説明にあがった。

この決算説明については、観光振興課が所管している各施設、例えば、隣のうみてらす名立や柿崎区のホテル等の温浴施設を中心に、毎年決算の状況を各区地域協議会に報告しているものである。

- ・資料「令和5年度くわどり湯ったり村及びゆったりの家における市及び指定管理者の収支状況等について」に基づき説明

くわどり湯ったり村については、近年、老朽化が進んでいる。また本年に入り、水の関係で臨時休館した。指定管理者、働いている方々、利用される地域の皆様にいろいろとご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫びしたい。

【坪田会長】

質問等はあるか。

【白滝委員】

資料中「2 利用状況」「4 指定管理者の収支状況」を見ると、令和4年から5年で数字が落ち込んでいるが、令和5年は指定管理者の交代で休館していたことが原因なのか。

【観光振興課：小関係長】

指定管理者交代の際に、以前の従業員が辞められ、宿泊営業を停止した期間があった。また、冬の期間、排煙オペレーターの工事で休館したので、日帰り温浴、宿泊利用が落ち込んだ。

利用状況として、日帰り温浴の利用者数はそれほど減っていないが、宿泊利用者数が1,500人以上減少し、収支状況として単純に1人約1万円かけて計算すれば、それだけの金額が落ち込んでくる。休館というよりも、宿泊の減少が一番の原因である。

【佐藤幸太郎委員】

いろいろお聞きしたいことはたくさんある。まず、今、宿泊の話が出たが、人気がない

くなって宿泊が減なのか、受け入れ対応の従業員が不足しお断りした体制の問題で宿泊が減になったのか。

私は率直に言って、まだ期間も短いのだが、地域住民の私たちとオーガニック社が目指しているところが、今ひとつ一緒になっていないのではないかという感じがしている。

「もっとこうやったらいいのではないか」という思いも、それぞれ地域住民はお持ちだと思うが、どういう形でオーガニック社にお伝えしたらいいのか分からない。双方向型で話をしないと、もろもろのことで不安がある。

桑取住民からすると、本当に湯ったり村というのは、希望である。湯ったり村がなくなると、非常に寂しい谷になってしまう。住民の不安の解消、オーガニック社が今後どういう方向を目指していこうとしておられるのか、もっと知りたいというのが率直なところである。

【観光振興課：小関係長】

宿泊施設はスタッフ人員を揃えることが一番の課題である。これは、高田、直江津の民間のいろいろな施設、飲食店からも話を聞くが、なかなか従業員が確保できないという課題があるようだ。湯ったり村の立地条件を考えると、従業員が集まりにくい。ただ、臨時的にアルバイトを探すサイトのようなところから募集をかけて、ここのところは比較的安定して従業員を確保しているので、今は宿泊受入の体制は整っているのではないか。

前の支配人は、よく地域に入って、いろいろな取組をされていたということを知っている。オーガニック社も提案の段階から地域に入り込んだ取組を構想していたが、先ほど申し上げたように、従業員がなかなかそろわないというところで、今はそういったところまで手が回っていないのではないかと感じている。地元から愛される施設でなければ、この施設の発展はないと思うので、指定管理者に話をしながら、少しずつそういう体制がとれるよう図っていきたい。

昨年、市議会で温浴施設の今後の方針について説明しており、市の方針として、令和12年度まで温浴施設を続ける方針は示している。運営形態は指定管理なのか、民間で経営する形になるかは分からないが、令和12年まではなんとか続けるという方針であることをご理解いただきたいと思う。

【坪田会長】

ほかに意見がなければ、私から一利用者として一言。これは回答を求めない。

私も湯ったり村を利用している。浴槽の天井に網がかかった状態で、非常に見た目が悪く、安心して浴槽に浸かっていられない。水道蛇口も「業者に依頼済み」となっていて、いつも全部使えない。それと今、サウナが流行っているが、それにもかかわらず、サウナが全然稼働していない。このような状態がずっと続いている。

せっかくの温浴施設、佐藤幸太郎委員が言われるように、私たち谷浜・桑取にとっては、唯一のシンボリックな温浴施設なので、やはりきちんとした形をとっていただきたい。地元は地域協議会で施設の経年劣化が進んでいるという説明を受け、事情を理解しているが、他から来たお客様はそういった事情は全然知らないことである。私の希望的な意見だが、その辺をきちんとしていただきたい。回答は求めないので、提案、要望としてお伝えしたい。

【佐藤幸太郎委員】

水回りの関係について、もう修繕したのでよかろうと思っても、また調子が悪いということで、いったいどうなっているのか説明が十分伝わってこない。住民は詳しいことは知らないで、不安が残っている。

【観光振興課：小関係長】

今年度に入り、水の関係で、7月と9月、2回ほど臨時休館した。皆さんご存じの方もいらっしゃると思うが、あの施設の水は、山から水を引いている。山の2か所に水源があり、そこから施設まで、約1km強管を繋いで、施設に水が入るという形になっている。

今回、水がなくなった原因は、実は施設を設置したときからずっと課題であった、夏場雨が降らないと山の水が減少するということが一つだ。数年前より、水の量は少しずつ減少している。ただ、施設を運営するに補う水は、十分な量だと認識している。

もう一つの原因が施設内の配管の老朽化である。7月、9月と応急措置をした。現時点では、タンクや貯水槽、お風呂の浴槽等に大きな異常がない。今後は、水回りについては安定的な水の供給ができるのではないかと考えている。ご迷惑をおかけし、本当に申し訳なかった。

【中原委員】

私たちは、老人会で長野の方面へ研修旅行で行くのだが、どこのホテルも親切で、新潟にはない、行ってよかったと満足感を得て帰ってくる。長野本社のオーガニック社にも、長野ならではのサービス手腕を発揮してくださることを期待している。

【観光振興課：小関係長】

指定管理者に伝えていきたいと思う。

【坪田会長】

地元ならではの声なので、考慮しながらよろしくお願ひしたい。

ほかに意見を求めるがなし。

これで終了とする。

－ 観光振興課 退室 －

【坪田会長】

やはり地元ならではの声を聞きながら、地元も利用しやすい、そして、地域外から遊びに来たお客様にもより良い施設に、そしてまた、帰りには「ああ、いい温泉だったな」と帰ってもらいたいの、私からの願ひである。

次の議題【自主的な審議】自主的な審議について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

- ・資料No.1 「【谷浜・桑取区】地域活性化の方向性を基にした意見の整理表（R6.9.25意見追加）」に基づき説明

本日は、「②地域のつながりを深めるための活動の推進について」を取り出して意見交換を行いたい。

【坪田会長】

質問等を求めるがなし。

資料送付の際に、一人ずつ発言をお願いする旨の願ひをしてある。

「②地域のつながりを深めるための活動の推進」「実態を知りたい事」「視察勉強・意見交換 候補先」について、一人ずつ全員に意見を求めるので、一言ずつでも結構である、また、いろいろ説明等あればしていただきたい。もし、なければないで結構である。

番場委員から、お願ひしたい。

【番場委員】

昔はもう少し谷浜・桑取地区で一緒に参加する行事があったような気がする。青少年の関係のスポーツ大会など、そういうもので町内を超えた地域内の交流があった。コロナの関係で行事が縮小される中で、今どういう行事が地域内で行われているか実態がよくわからないので、報告会等をやって情報共有できればと思う。またいくつかの町内で

一緒にやれるものがあれば、意見を出し合って実施していけばよいのではないかと。

【中原委員】

7町内会で谷浜地区南部協和会として一緒に活動してきたが、高齢化でいくつかの町内会がまとまって活動することが難しくなっている。この現状から、より広い、桑取・谷浜地区が一緒になって何かをやるような状態ではないと感じている。それでも、その大変さを超えて何かやれたらいいと模索している。

【田村委員】

過去、谷浜地区では、町内会を超えて集まり、長浜や五ヶ浦（有間川・丹原・鍋ヶ浦・吉浦・茶屋ヶ原）、その地域を交互に歩くような会を盛んにやっていた。ただ、今それをやろうとすると、お年寄りでは体力的に参加できないので、何をやったらいいのか、不安に思っている。

今、中原委員から南部協和会の話が出たが、10月20日に南部協和会の主催で、輪投げ大会があって、お年寄りから小さい子供まで約60名が集まった。大会をやることによって、見たことのないような顔ぶれが参加し、地域のつながりを感じ、心が休まるひと時であった。参考にしたいと思う。

【白滝委員】

私は、ここにも項目が挙がっているが、学校存続が非常に気にかかる。前回は議題に挙がっていたが、その辺のことをきっちりここでも話してみたい。

今話が出た地域の集まり、例えば城ヶ峰砦の見学会等に皆さんの参加を促したい。

10月の100kmマラソン、50kmマラソンで私も応援に沿道へ出たが、長浜はほとんど誰も応援に出ていなかった。せつかくみんな頑張って目の前を走ってくれていて、手を挙げて「頑張って」と応援するとランナーも答えてくれる。こういった地域で関われる機会はたくさんあると思うし、報告にあった湯ったり村も、地域住民からもアプローチして、一緒に何かやらないかと話し合いを持ったらどうか。

【坪田会長】

人口減少や高齢化といった諸条件で行事が減り、さらにコロナで途絶えたものがある。地域行事から縁遠くなった人が多いように感じている。それをまた引き起こすのが、我々地域協議会の一つ協議事項でもあり、方向づけを行う責任があるのかもしれない。今後はその辺を考えながらやっていきたい。

【佐藤幸太郎委員】

私が関心を持っているのは、城ヶ峰砦である。谷浜、桑取地区でいうと谷浜地区にある。私は桑取の人間なので、少年時代は城ヶ峰砦の存在すら知らなかった。先日、10月20日に桑取地区の町内会で構成されている「桑取会」の行事で初めて、城ヶ峰砦に出かける機会があり、20名程が参加した。皆さん素晴らしいと喜んで帰って行かれた。もっとアピールできないかと感じている。

もう1点関心があるのは、空き家対策である。空き家はどんどん増えているし、空き家を壊してく姿も見ているわけだが、何らかの形で地域が空き家の活用に関われないだろうか。

最後に、湯ったり村について。地域住民と運営会社で密接に意見交換し、たくさんの人が訪れる施設になってほしい。いろいろな人の意見をもっと吸い寄せる形をとった方がいいのではないかと思う。

【佐藤和幸委員】

今年8月に城ヶ峰砦の狼煙上げに参加したが、本当に綺麗に整備されており、是非、地域の人たちみんな登って、見ていただきたいというのが一つである。

湯ったり村の話にだが、西山寺町内会の有志で、湯ったり村を応援する意味も込めて、毎月1回レストランで食事会を開いている。見ていると、やはり地元の人々の利用が少なくなったように思う。湯ったり村の事業が縮小しないように、是非みんなを利用して盛り上げたい。

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部が中心になって8月に「夢に出てくる盆踊り」をやっている。会場は湯ったり村で、中ノ俣地域の人たちも一緒になってやっているのだが、そういうところにもみんな是非参加していただきたい。主催はそれぞれではあるが、今行われているものに積極的に参加し、それで地域のつながりを深める。それも一つの手段ではないかと思う。

【笠原委員】

今、皆さんのお話を聞いていると、城ヶ峰砦や湯ったりなど、内陸の話が多い。私は海の監視員をやったことがあるが、年々お客さんが減っている現状を見ている。近頃では、地元の浜茶屋がなくなってしまった。長野の方が来て「ここは長野の海だ」と叫んでいるのを聞いて悔しい思いをしている。もう少し海の行事をやって、地域住民も海に目を向けられたらと思う。

孫を連れて行きたくても、浜茶屋がないと炎天下の砂浜で遊ぶのはかわいそうだ。谷

浜・桑取区では、山に住んでいる人の方が多いように思うし、だからこそ、海での思い出というのは必要だと思う。私たちが小学生のときは、臨海学校の行事で学校に泊まり、海で遊んで楽しんだということがあり、思い出に残っている。そういったことを計画し、海でのいい思い出を作ってあげればいいのではないかと考えている。

【坪田会長】

確かにおっしゃるとおりである。「谷浜の海に来てくれ、来てくれ」と宣伝する以前に、受け皿がない。ポスター1枚作っていない。以前はポスターをきちんと作って、全国に配布していたが、コロナをきっかけに停止、それが逆に楽な方向に変わってきている。今年もやらないほうが楽、やるよりもやらないほうがいいという雰囲気がある。この雰囲気を見直さないと活性化につながっていかないと思う。

【安達光宏委員】

地域のつながりを深めるための活動推進ということで、過疎化が心配、高齢化への対応、町内行事の存続、学校存続に声を上げるというものが目に留まる。

私は有間川の町内でレクレーション関係の担当をやっていて、遠足や運動会を企画してやっている。毎年、参加人数が減っている。小、中学生が少ないうえ、ほとんどがクラブ活動等で町内行事に参加していない。私たち以上の年齢での遠足、運動会となってしまっていて、昔のように、本当に町中全員参加で、活発に賑わいのある、活気のある運動会等ができなくなってきているのが現在の姿である。

現在はいろいろな楽しみができています。家族でどこかに旅行したり、スポーツチームで活動したり、塾に通うなどそれぞれ思い思いに過ごしている中、そういうことをしないで地域行事に参加してくれ、というわけにもいかない。みんなに「協力して、協力して」というのはいいが、声をかけるとすぐにみんな出てくれるかということ、なかなか難しい面がある。魅力あるまちづくりというのはわかるが、思い出づくりもなかなか難しいと感じている。

【安達麻美委員】

町内行事の継続は、各町内の皆さんに頑張ってもらっているから、いいと思うが、先ほど田村委員がおっしゃったように、町内同士の交流が少ないのではないかと感じていた。子供、親、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に参加できるような行事があるといいのではないかと考えた。

私も子供が低学年の頃に、遠足と一緒に参加し、各地域の人たちの交流ができていた

し、行事があったことを覚えている。その頃は学校も協力し、大人もPTAの役員として地域行事と一緒に参加するといった取組ができていた。しかし、現在は先生も働き方改革で一緒に参加しにくい、PTAをしている親御さんたちも、土曜日までPTA活動をするということが少なくなっているのではないかと思う。地域行事はあるといいとは思いますが、そこら辺が難しいところではないか。

サロンや健康教室といったところで、町内会を超えた違う地域の方と交流ができるという場があるのはいいと思う。私の母親も参加しているが、普段話さないような方とも孫同士が同級生で、最近の状況を報告し合ったり、町内の話を聞いたりして楽しそうにしている。高齢者向けの活動だが、まずはどんなことをやっているのか知って、多くの方に参加してもらい地域の交流を深める活動も進めていけたらと思う。

【横田副会長】

「②地域のつながりを深めるための活動の推進」の中に、前回いろいろ出た項目が上がっているが、ほとんどここにいろいろな問題が上がっているのではないかと思う。

今、皆さんから学校についての話があったが、桑取小学校が閉校になったのが2013年である。学校がなくなるというのは、その地域の方々にとって、非常に心理的なダメージがある。学校があると、運動会や文化祭は学校の子供だけでは少ないので、地域の皆さんが参加して地域のイベントとしてやっていたが、結局子供がいなくなると、その親御さんもおばあちゃん、おじいちゃん、だんだん集まることがなくなってくる。桑取小学校閉校後も、なんとか五、六年ぐらいは、地域の大人だけで運動会を実施したが、やはり子供が少なくなって、コロナになって、その活動はやめてしまった。そういう意味で、今、谷浜小学校の存続についていろいろ話を聞いているが、なんとか残すような方向で支援できるものがあれば取り組んでいきたいと思っている。

それと、先ほどから話が出ている湯ったり村については、私も地元に住んでいてここ何十年かの動きを見ているが、もっと地域と意見を交わして、谷浜・桑取区の季節感をいかしたメニューやイベントを実施したらどうかと考えている。

【坪田会長】

学校が統合され閉校になると、どうしても地域で行われることも縮小されてくることはこの地域で経験してきていることである。平成の間に桑取小が、昭和に長浜・高住・有間川小学校がなくなった、それに伴い地域としての関りも縮小した。先ほど安達麻美委員からも話があったが、やはり学校があると、地域が一つの共通で成り立っていくの

ではないか。先ほど横田副会長が言われたように、現在、学校存続に向け「学びの郷谷浜・桑取の教育を考える会」も立ち上がっている。

今日はたくさんの意見を出していただきありがたい。この出た意見を参考に、地域のことをよく知るについて、情報の整理を進めていこうと思う。次回は、自主的審議事項の関係の「③海、山、川の恵みの活用」ということで、「⑥地域の情報発信」をまとめて、実態を知りたいこと、視察勉強、意見交換、候補先について話し合いたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

その他、事務局何かあるか。

【丸山主任】

12月に湯ったり村の料金改定について諮問、1月に答申として皆さんのご意見をまとめていただくことを予定している。

・次回協議会：12月

【坪田会長】

その他に意見はあるか。

【白滝委員】

湯ったり村の件については、できれば早めに話をしたい。どう動いたらいいのか皆さんわからないと思う。

【佐藤所長】

地域協議会として、湯ったり村について協議を深めていくのか、進め方を決めていただきたい。

【坪田会長】

本日の観光振興課の報告から、湯ったり村の関係で、委員の皆様からいろいろ発言いただいた。地域協議会として湯ったり村の件で、指定管理者から話を聞いたり、意見交換したいとの意見が出ている。このことについて、何か意見はあるか。

【佐藤幸太郎委員】

私は当然やったほうがいいと思う。地域と湯ったり村の気持ちが通じ合っていないように感じており、それが一番の不安要素である。だから、話し合いはすごく大事だと思う。

【横田副会長】

知りたいのは、事業計画である。どういう取組をする計画か教えていただき、こちら

の意見も伝えたい。お互いそういう話をする中で、ひょっとしたら面白い意見が出るかもしれない。

【白滝委員】

こちらからも「こういう案があります」というようなアイデアを出して、お互いに湯ったり村を盛り上げていく、前向きな意見交換ができるとよい。

【田村委員】

意見交換に賛成である。ただ、今日の報告は市の観光振興課からであったので、まずは市と意見交換をするのも一つではないか。

【笠原委員】

指定管理者は民間企業で経営が第一である。要望的に地域の思いを伝えるだけの場はもったいない。白滝委員が言ったように前向きに話し合い、それで湯ったり村も地域も盛り上がる形にしていきたい。

【坪田会長】

くわどり湯ったり村は、この地域のシンボリックなもので、なくなったらどうなるか、学校がなくなるのと同じように、地域に元気がなくなっていくのは明らかである。湯ったり村がなくなったら、活性化も何も話にならない。

皆さん谷浜・桑取区住民の代表として地域協議会に参加いただいている。だから地域協議会の意見を地域の声として、湯ったり村・観光振興課と意見交換するような機会は検討したい。そのような進め方でよいか。

(委員同意)

湯ったり村を大事にしたい地元の気持ちを伝え、より良い施設になってほしい。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。